

宇陀三城を巡る

芳野城・澤城・秋山城（宇陀松山城）

問文化財課 (02-3676-1488・0365)



菟田野東郷・下芳野・宇賀志

芳野氏

芳野氏は、その出自は明らかではありませんが、鎌倉時代末期の正和4(1315)年の春日若宮祭礼(おん祭り)の流鏝馬で、10騎のうち2騎を分担するなど、力のある武士でした。南北朝の騒乱では北朝方として戦いますが、応仁の乱後は伊勢の国司、北畠氏に仕えます。
天正12(1584)年、羽柴秀吉が近江日野の領主だった蒲生氏郷に宇陀郡を与え、宇陀三将は蒲生氏の与力と

なりますが、翌年、秀吉の弟の秀長が大和に入ったことにより、宇陀三将は大和を離れることになり、その後の芳野氏の話は不明となっています。

芳野城

芳野城は芳野谷の入口にあり、芳野川、キサ谷川、宇賀志川が自然の堀として四方を守っています。
西に宇太水分神社のある古市場、南は吉野方面が見渡せる尾根筋に北西から南東にかけて約340メートルにかけて展開し、3か所の曲輪(※)とそこに敵を足止めするための堀切が3か所設けられています。現在は堀切と土を積んだ土塁の跡が残っています。
また、芳野城から尾根筋に南東約900メートル離れた場所に、芳野氏の居館であった下城の跡があり、地元の方はその場所を「オヤシキ」と呼んでいます。
※曲輪：城の内外を土塁、石垣、堀などで区画した区域

宇陀三城を巡る



芳野城跡



城の守り人

芳野城を守る会

代表 岸岡淳二さん



芳野城跡は旧下芳野小学校の校歌に登場するように地元のシンボルの存在でした。

しかし、城跡も登山道も全く整備されておらず、地元でも登ったことがない方が大半でした。そこで、高齢化が進む地域の活性化のため観光資源として活用しようと、20年程前から整備の話を持ち上がりましたが、人力での作業は困難でした。

検討を進める中、平成31年、市と国から補助金が交付されることになり、整備を始めることができました。まずは、地元の方でも城跡の正確な場所を把握している方が少なかつたため、案内板を設置し、場所の説明を行いました。
続く登山道の整備が大変でした。幅3メートルほどある当時の道が一部残っていたのですが、そこまでの道がないため、地権者の方に協力いただき、ほたる公園から途中まで重機により新



桜葉神社からの登山道の整備

たな道を作り直しました。そこからは会員と自治会の有志の方により、登山道と城跡の整備を行いました。

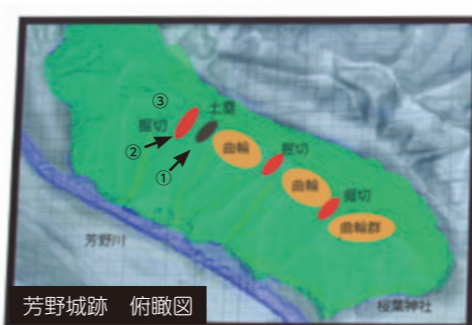
今年3月には整備事業が完成したことから城跡で完成式典が開催され、多くの方に訪れていただきました。それ以降、ほとんど毎日のように見学の方が訪れてくれます。

現在は、引き続き堀切や主郭跡の整備を行っています。また、東側からの登山道である東郷の桜葉神社からの整備を始めました。これが完成すれば、東西から周遊することができるようになり、より多くの方が訪れてくれると期待しています。芳野城跡だけでなく、芳野地区の魅力を知っていただくためにこれからも整備を続けていきたいです。

芳野氏の時代から伝わるものに惣社水分神社から宇太水分神社までの神輿の渡御があります。渡御に用いられる神輿は芳野氏が後醍醐天皇から拝領したものと伝わっています。



黒漆金銅装神輿 (国指定重要文化財)



芳野城跡 俯瞰図



堀切から東の曲輪を見上げる。端には土を積み上げた土塁があります。

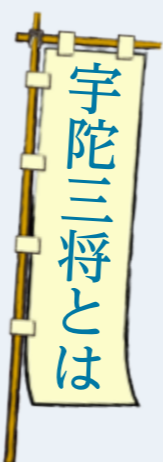


東側の堀切。敵の進入を防ぐために掘られたもので3か所あります。



東の堀切の東側は整備され、命名碑と展望台が設置されました。

城跡からは吉野方面の山々が眼前に広がります。ここからのろしを上げていたと考えられます。



平安時代より大和国は興福寺が支配していましたが、鎌倉幕府による守護の設置でも大和国はその例外とされ、興福寺が守護職を担います。

宇陀もその例外ではなく、興福寺領の荘園が存在しており、その現地管理を担う荘管として成長を遂げ、後に伊勢国司・北畠氏から「和州宇陀三人衆」と称され、宇陀を代表する国人領主となったのが、芳野・澤・秋山の各氏で、それぞれが芳野城・澤城・秋山城を築きました。南北朝時代、澤・秋山氏は南朝方、芳野氏は北朝方に味方して戦いました。

芳野城・澤城・秋山城の位置



澤城

榛原澤・大貝

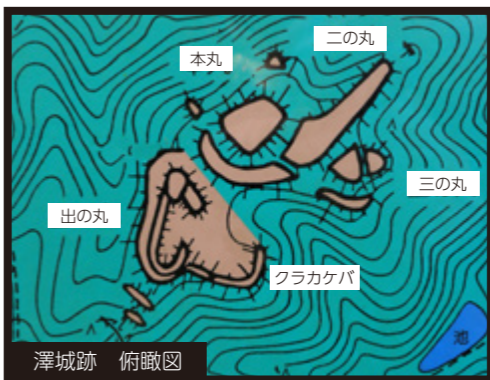


澤城跡



澤城

澤城は伊那佐山から南東にのびる尾根上の城山(澤山)の頂上に、南北約700メートル、東西約300メートルに渡り建てられた山城です。東端の堀切は三重に防御を固め、主郭部の中ほどにも堀切があり、東西に曲輪群が分けられ、西に本丸・二の丸など、東に出の丸・クラカケバと呼ばれる曲輪が置かれました。ふもとの澤地区内には、下城と呼ばれる館跡もあります。



城跡に建てられた「出の丸跡」の看板。看板の上が出の丸跡。

出の丸と本丸の間の深い堀切。左側が本丸跡。

澤氏

澤氏は出自が藤原氏と言われており、南北朝時代に南朝方として活躍し、芳野氏と同じく応仁の乱後、北畠氏と関係を築きます。



▲平成29年に建てられた少年右近像

高山右近の洗礼

永禄2(1559)年、松永久秀が大和を攻め、翌年、澤城にも攻め入ります。話し合いによって城は占拠され、澤氏は伊賀へ逃れ、久秀の武將、高山友照(飛騨守)が城主となり、城を整備、守備体制を固め、家族を呼び寄せます。この友照の息子が後にキリシタン大名となる高山右近です。

永禄6(1563)年、友照は、キリスト教修道士ロレンソとの宗教論争の結果、キリスト教に改宗し洗礼を受けました。その翌年、友照は口レンソを城に招き、当時12歳の右近をはじめ、150人の家臣も洗礼を受けました。イエズス会の宣教師、ルイス・フロイスの「日本史」に、澤城の記述があり、妻子や約300人の兵士がおり、教会、礼拝堂などの施設があったと書かれています。しかし、永禄8(1565)年には政情不安により城を追われ、右近らが澤城にいたのはわずかな期間でした。

歴史の伝承人

大和宇陀高山右近の会

事務局長 桑谷 宗久さん



澤城は歴史ある山城で、キリシタン大名として名高い高山右近は、12歳の時に、ここで盲目の日本人宣教師であるロレンソから洗礼を受けました。

しかし、時の経過とともにそのことは地元でもすっかり忘れ去られていました。ところが、昭和36年、愛知県の郷土史家の森徳一郎さんが高山右近のことを調べにやって来ます。右近と同じく澤城で洗礼を受け、故郷の尾張でキリスト教の布教に専念したコンスタンチノの足跡を調べるためです。ところが、物知りだからと紹介された郵便局長の大門貞夫さんを訪ねますが、大門さんもよく知りませんでした。

地元の歴史に驚いた大門さんは、もっと知ってもらわねば、と高山右近顕彰委員会を立ち上げ、多くの方々の協力を得て、昭和45年、澤



高山右近顕彰碑

地に「高山右近 受洗の地」の顕彰碑を建立しました。翌年から右近が少年期をこの地で過ごしたことを記念して、「右近子どもまつり」を開催することになり、顕彰碑横の田んぼで開催した運動会には600人以上の方が参加しました。その後も場所を伊那佐体育館に変えて開催していましたが、子どもの人数が少なくなってきたうえに、コロナ禍のため、ここ数年は開催できていません。



右近子どもまつりの様子

平成29年、右近はバチカンより、カトリック教会の「福者」に認定されました。「聖人」に次ぐ崇敬の称号です。これを記念して、大阪城ホールで行われた列福式に間に合わせるように、当会でブロンズ製の「少年右近像」(前ページ)を顕彰碑の脇に建立し、右近子どもまつりで像の除幕式を行いました。また、右近出身の地である大阪府豊能町が、同じく右近の福者認定を記念して、同町の特産品である酒米を使用した日本酒「右近」を開発したのですが、地元で酒蔵がなかったため、右近の洗礼の地である当市の酒蔵に製造を依頼され、現在も販売されています。



少年右近像の除幕式

そして、居館の周囲に堀を巡らせ武装化していきます。戦国時代になると、平地の居館から、防御力の高い山に城を築くようになります。山の地形を巧みに利用して、堀や土塁を設けた複雑で大規模な山城が出現します。戦国時代の後半、織田信長により高石垣・瓦葺建物・御殿・天守などを備えた城郭が築かれます。(岐阜城・安土城など) 城は単なる防御施設ではなく、権威の象徴となります。私たちのイメージする高石垣の上に天守がそびえ立つような城郭は、この時期に登場したのです。その後、豊臣秀吉やその家臣の大名の手により、こうした石垣造りの城郭が、江戸時代初めにかけて全国で築かれるようになります。

城という大阪城や姫路城のような戦国時代から江戸時代にかけて作られたものを思い浮かべるのではないのでしょうか。では、武士の時代が始まった鎌倉時代や室町時代にも同じような石垣や天守のある城が建っていたのでしょうか。

鎌倉時代は、城と呼べるような建物はなく、武士は館を拠点としていました。館には防御施設はほとんどありませんでした。しかし、幕府の弱体化により、各地で戦が頻発するようになると、館では防御しきれなくなり、近くの山を利用して山城が作られるようになります。

南北朝時代から室町時代初期の山城は有事の際に籠城するのが目的でしたので、山、川、丘など自然の地形を利用しました。初期の山城は簡素な防御を設けただけで、平時はそこで生活することなく、山麓に構えた居館で生活していました。



キャラクターデザイン: 奈良芸術短期大学デザイン広報サークル



特集

市政トピックス

うだちから

まちのわだい

みんなで子育て

病院・ウェルネス

お知らせ

掲示板

うだチャン

宇陀三城の御城印を集めてみませんか

今回、紹介した「宇陀三城」の御城印を販売しています。それぞれの城名と家紋を配した「スタンダード御城印」と、奈良芸術短期大学デザイン広報サークルの学生がデザインした「オリジナル御城印」があります。

【オリジナル御城印】

芳野城
芳野城から上がるのろしと芳野川に舞う笛をデザイン



澤城
澤の地名がある1596年に描かれた「東アジア図」と高山右近をイメージ



宇陀松山城
天守で使用されていた「面鬼瓦」をデザイン



【販売価格】1枚 300円
【販売場所】
芳野城：奈良カエデの郷ひらら 菟田野アグリマート
澤城：歴史文化館日旅籠あぶらや 宇陀松山城（秋山城）：まちかどラボ
宇陀松山城の鬼瓦をデザインした「御城印帳」も上記4か所で販売しています。

史跡宇陀松山城復元図



▶動画でご覧になることができます



▲頂上部、右側が本丸跡、左側が天守郭跡

宇陀松山城跡は平成29年、公益財団法人日本城郭協会から「続日本百名城」に選定されています。



▲本丸跡の発掘の様子

▶本丸跡から出土した五七桐文鬼瓦

秋山城は、大宇陀の市街地東部の「古城山」の山塊一帯に、南北朝時代には本拠を構えていたと推定されています。標高473メートルに築かれた城からは、四方を望め、城下町も一望できます。豊臣秀長の和郡山入部後は、伊藤義之、加藤光泰、羽田正親、多賀秀種と城主が変わり、大規模な改修により近世城郭へと移行します。こうした改修から、宇陀松山城が大和郡山城や高取城とともに大和国支配の重要拠点として豊臣氏に認識されていたことがうかがえます。慶長5（1600）年、関ヶ原の戦いで多賀秀種が西軍に属したため改易となり、徳川方の福島高晴が入城し、さらに城の改修を行います。これらの改修を機に城下町の名を「松山町」と改め、松山城と呼ばれるようになったと思われま。

元和元（1615）年、一説によれば、大坂夏の陣で豊臣方への内通が疑われ、高晴は改易となり、松山城も小堀政一（遠州）によって破却（※）され廃城となりました。※破却：城を取り壊すこと

秋山城から松山城へ

城の案内人

宇陀市観光ボランティアガイドの会長 藤本勝也さん



いざ！宇陀松山城へ！

スタートは西口関門、通称、黒門からです。ここが松山城へ向かう第一番目の門です。高麗門と呼ばれる造りで外側からの攻撃に強くできています。まちの中の道は全て直角に曲がっています。攻めてきた敵のスピードを抑えるためです。城下町では通りの角に神社や寺院が多くあります。ここにも恵比寿神社があります。境内で多くの兵が隠れて敵を待ち伏せるようにこの場所に置かれました。城下町は商人が多く住み、「松山千軒」とも呼ばれました。また、葉のまちでもあり、50軒もの葉問屋がありました。



▲史跡西口関門

▼一部石垣が残ります



城がなくなった後に、宇陀松山藩主となったのが、織田信長の次男、織田信雄です。織田家は4代80年間に渡り宇陀松山藩を治めますが、元禄8（1695）年、お家騒動から、丹波国柏原（兵庫県）へ国替えとなり、以降は幕府の直轄領となり、宇陀松山は商人のまちとして発展します。



▲春日門跡（発掘調査時）

宇陀松山城へ到着！

坂を登ってようやく城に到着です。一番外には空堀があり、橋が架かっています。橋を渡ると、雀門と呼ばれる門があり、そこから城内です。今は一部しか残っていませんが当時としてはかなり高さのある石垣でした。向かい側の本郷の山に石切り場があったことから石には恵まれていたようです。



▲雀門から石段を上る

雀門から急な石段を上ると本丸御殿が建つ広場へ出ます。瓦の出土状況から本丸御殿は瓦葺きよりも高価な檜皮葺きか柿葺きであったと考えられています。



▲本丸跡、奥が天守郭跡

その後、幕府の直轄となった宇陀松山ですが、それまでは城持ち大名が治めていました。城持ち大名といえば幕府での処遇も特別だったと言われますから、宇陀の方は誇りをもっていると思います。360度見渡せる城跡の山頂は奈良県景観資産にも登録されています。皆さんも当時に想いを馳せるため、宇陀松山城に登城されてはいかがでしょうか。私達が楽しく案内します。